

ごあいさつ



滋賀医科大学は、「地域の特徴を生かしつつ、特色ある医学・看護学の教育・研究により、信頼される医療人を育成すること、さらに、世界に情報を発信する研究者を養成することにより、人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献する。」ことを理念としています。

さて、滋賀医科大学附属図書館は、この理念の実現のため、学術雑誌や専門図書など最新の学術情報を収集・蓄積し、それらの学術情報を、教職員・学生など学内構成者を中心に、さらに、求めに応じて県内の医療関係者への提供を努めているところです。

一方、当館には、そうした最新の学術情報以外に、彦根藩医を勤めた、河村純碩・河村純達の収集した図書と古文書からなる「河村文庫」をコレクションとして収蔵しています。

この「河村文庫」は、昭和 53 (1978) 年、当時の彦根河村家当主・河村純一氏が本学に寄贈されたもので、その資料は『滋賀医科大学古書目録』(昭和 56 (1981) 年刊) に収載され、利用に供されてきました。その後、今日の IT 時代にあわせて、平成 16 (2004) 年から「滋賀医科大学近江医学郷土史料電子文庫」として、電子化した画像データを、当館ホームページから利用いただけるよう取り組んでまいりました。

この度、平成 18 年度科学研究費補助金(研究成果公開促進経費)の交付を受けて、「河村文庫」の主要な古医書の全てを一挙に電子化し、国立情報学研究所の次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業による「滋賀医科大学機関リポジトリ」の情報発信コンテンツとして、インターネットを介してご利用いただけるようになりました。このことにより、従来、医学史や近世史の研究者の方々が、事前に予約いただき、直接当館にお越しになって、資料を利用されていたものを、お手元のパソコンから自由に閲覧できるだけでなく、湖国の医家の歩みを、広く皆様方に観望いただける基盤整備の第 1 歩を進めることとなりました。

今回、当館では、この画像データベースの公開を記念し、利用のご案内を兼ねて「河村文庫」のごく一部ではありますが、展示会を開催することといたしました。

開催にあたりましては、より多くの県民の皆様方にご覧いただくという趣旨に鑑み、滋賀県立図書館殿の共催をいただき、会場の提供をはじめ多大なるご協力を賜われることになりました。あらためてお礼申し上げます。

今回の展示会を契機とし、研究者の方々のみならず、当館の画像データベースの利活用をいただき、湖国の医家の営みにも思いを馳せていただければと思います。

滋賀医科大学附属図書館長

松田 昌之